

活動プログラム

団体名（NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん）

1. 事業内容

☐	子どもたちの生活習慣や学習習慣の確立に関する活動
☐	不登校（傾向）児童生徒対象の体験活動
☐	自然体験、生活体験、社会体験に関する活動
☒	家庭教育支援に関する活動
☒	地域課題の解決に関する活動
☐	地域人材の育成に関する活動

2. 活動プログラム名

「	「こどもまんなか社会」を考える地域コミュニティワーク ～温かいつながりと希望の持てる子育て環境を考えるプログラムの開発と普及	」
---	---	---

3. 目 標（ねらい）

子育て当事者や支援者、地域住民など様々な立場の方が集い、子どもの誕生前から切れ目なく育ちを支えウエルビーイングを高めるとともに、保護者の成長も温かく応援できる地域環境の在り方について考えるプログラムを開発し、実施する。また、其々の地域単位でも、プログラムが再現できるよう普及に努め、岡山県内のこどもまんなか社会の実現にむけて、其々が主体的に行動する気運の醸成を図る。

4. 活動内容 ※対象者の活動及び活動実施に向けた研修会等を記載してください。

回	★目標 ・ 活動内容・対象・参加者人数・スタッフ人数・会場等	◆目指す参加者の姿 （評価方法）
第 1回	★目標： 子どもをとりまく様々な立場の方が、「こどもまんなか社会」について話し合う場を設けることにより、其々が日常生活の中で自分にできる一歩を発見し、自分を含め周囲の人々の行動が変容できるアイデアを見出す。 ◎活動内容： 「こどもまんなか社会」を考えるワークショップ 『私の考えるこどもまんなか』 （主な内容・予定） ・ 国がめざす方向性を確認する ・ 子どもの育ちにとって大切なことを共有 ・ 子どもをとりまく環境における現代の課題 ・ 「こどもまんなか」の実践のために今後とりくみた	◆国の示す「こどもまんなか社会」にむけて、子どもをとりまく多様な方が感じる現状を言葉にし合う場を設けることにより、其々が気付いていなかった点にも目を向けることができる。 （プログラムを通して声を聞き取る。当日アンケートで評価を得る。） ◆子どもの育ちを理解すると共に、子どもをとりまく環境の重要性に気づく。 （プログラムを通して声

	いアイデアを出し合う ◎対象： 子育て中の保護者、子育て支援者、地域住民、園や学校の先生、行政、企業関係者など ◎参加者人数：14名 ◎スタッフ人数：4名 ◎開催時期：令和6年10月25日（金） 13:00～16:00 ◎会場：ふれあい交流拠点「そらと森」	を聞き取る。当日アンケートで評価を得る。） ◆ワークを通して、様々なアイデアに出会い実践に向けて意欲が向上する。 （プログラムを通して声を聞き取る。当日アンケートや事後のフィードバックで評価を得る。 もし行動してみたいという具体案があれば、その後も伺っていく。）
--	--	---

5. 展 開

回 時間	内 容	準備物	留意点	◆目指す参加者の姿 (評価方法)
【第1】 10分	【導 入】 グループづくり（基本4人） カメラの許可 ○はじまりのあいさつ (趣旨を伝える) ○本日のテーマの確認 ○団体の紹介	・当日レジュメ ・ワークシート ・20周年あゆみ ・ひろば通信、情報 ・アンケート ・名札 ・カメラ ・パソコン ・プロジェクター ・スクリーン	・リラックスした雰囲気づくり ・スタッフも各グループにメンバーとして参加し、交流を促進する。 ・自然な会話から参加者の情報収集	
40分	【活 動】 ○グループで自己紹介 (10分) ・お名前、所属や活動 ・「子ども」というと〇〇 ○講話 ・国がめざす方向性を共有	・キーワードカード ・資料「100 か月ビ	・「可愛い」「社会の宝」など例を挙げる。	◆子どもの育ちを理解すると共に、

	・子どもの育ちにとって大切なこと（子どもの発達、子どもの権利など） ・子どもを取り巻く環境における現代の課題（社会的マルトリートメント概念） 	ジョン」 ・資料	・社会的マルトリートメントの考え方や、子どもの育ちにとって大切なことをベースにおいた上で、子どもにとっての環境がどうか考える。	子どもをとりまく環境の重要性に気づく。（プログラムを通して声を聞き取る。アンケート）
35分	○グループワーク 『大人のものさし見直そう』 ・講話を聞いて 「周囲の子どもたちのことを思い浮かべて、子どもの成長にとって気になること」や「子どものためと思っていたけれど大人の目線だったと思ったこと」を付箋紙に書き出して貼る。 （5分） ・子どもの立場からみるとどうか？子どもの言葉、SOS等を想像して書く。 ・グループでシェアする （15分） ・その中から1つの内容に絞って考えていくため、グループ内で相談し決める。 決まった1つを模造紙に貼りかえる（10分）	・A4用紙 ・付箋紙（青） ・黒ペン ・付箋紙（黄） ・A4用紙	・付箋紙（青、黄）は各自のA4用紙に貼ってもらう。 ・似たような内容を合体してもよい。この段階で子どもの声をさらに加えてもよい	・参加者が感じる現状を言葉にし合うことで、それぞれが気づけていなかった点にも目を向けることができる。（ワークを通して声を聞き取る。アンケート） ・子どもの立場に立って子どもの心を想像することができる。 （プログラムを通して声を聞き取る。アンケート）

20分	 休憩（お茶の準備）	・ お茶、器など	・ 他のグループの内容を見て回ってもらえるよう促す。	
40分	グループワーク 『私達にできるアクション』 ・ ここまでの話をうけて、気になる状況はなぜ起こるのか（水色）、周囲に発信していきたいことなど（ピンク） 具体的に考えて記入。（7分） ・ グループでシェアする。（13分） ・ アイデアをもとにグループで「アイデアシート」（企画書）を作る。（20分）	・ 付箋紙（水色、ピンク） ・ アイデアシート	・ いくつでも出していだけるよう促す。家庭、地域、学校など広い視野で考えてもらえるようにする。 ・ 楽しいアイデア、自分達のできる範囲で具体的に書いてもらう。	◆ワークを通して、様々なアイデアに出会い実践に向けて意欲が向上する。 （プログラムを通して声を聞き取る。アンケート・事後聞き取り） ◆子どもへのかかわり方についてふりかえり、「こどもまんなか」に向けて実践してみたいことを具体的に考える機会となっている （アンケート・事後聞き取り）
20分	・ 全体でアイデアシート（企画書）の紹介をする。		・ できた経緯も含めて話してもらう。	
15分	（1グループ4分程度） 【まとめ】 講話、ワークショップなどの活動で考えてきたことをまとめる。 ・ こどもまんなか社会は小さなことから始められること ・ 子どものそばにいる人が子			◆ワークショップに参加できたことをよかったと感じている （アンケート・事後聞き取り） ◆今後、自分達の地域でも「こどもまんなかを考える

	どもの声を代弁し発信することが大事である ・これからも子どもをまんやかにして大人がつながっていきたいことを伝える。 ○アンケート記入			ワークショップ」を開催したいという気持ちが生まれている (アンケート・事後聞き取り)
--	--	--	--	--